

【民俗】

祭文語り用具

大江町道海の故計見重信（本名鈴木彦次郎）氏が使用した法螺貝・錫杖・台本などの祭文語り用具一式です。



祭文語り用具 法螺貝・錫杖・拍子木・扇子

祭文語りは、明治末期から昭和初年にかけて東北地方で盛んであった民俗芸能（語りもの）で、デロレン祭文とも貝祭文とも呼ばれました。祭文語りには多くの流派があり、計見・山口・梅ヶ枝の三流派が残りましたが、中でも最も盛んで人々に愛されたのが計見派で、計見重信は二代目楽翁として一世を風靡しました。

楽翁師は、毎年秋11月頃と冬2月頃、決まった家を定宿として巡回し、地域の人々の前で語っていました。語りのおよすは、はじめに口上が述べられ、法螺貝を口に含みながら唱えるように唸り（これがデロレンと聞こえる）、錫杖を鳴らします。つづいて扇子で演台を打ちながら語りはじめます。語りには講談本などを種本として、忠孝物が多く口演されました。現在、祭文語りの伝承者は、山形県内で一人だけになっています。

【教育】

紙芝居・上杉鷹山公 昭和17年（1942）、紙芝居刊行会（東京都）から発行されたものです。上杉鷹山は国定修身教科書において「産業をおこせ」「儉約」「孝行」「師をうやまへ」などの項目で多く登場します。それは時代の要請にそっています。紙芝居

も戦争の激化とともに教訓的なものが多くなりますが、この資料は上の徳目に関する話などを入れながら鷹山の一生を描いたものです。



主な展示資料

資料名	点数	備考
オウギハクジラ全身骨格	1	本館収集
仙台市竜ノ口層産貝類化石	10	川 正彦氏 寄贈
朝日町本郷層産貝類化石	15	東海林秀矩氏寄託
富士火山溶岩	1	稲毛 実氏 寄贈
山形県で新採集の植物6種	6	
コテングクワガタ（帰化種）		大高 滋氏 寄贈
ホソバオオアマナ		斎藤 清氏 寄贈
ハナスカススキ（帰化種）		高橋信弥氏 寄贈
オオアマドコロ		土門尚三氏 寄贈
ベニシスラン		〃
フユイチゴ		大類雄一氏 寄贈
山形県で分布が稀な植物35種	35	
ヒロハキクザキイチゲ ほか		加藤信英氏ほか寄贈
鈴木稔貝類コレクション	250	鈴木隆子氏 寄贈
オキナエビス科4種・タカラガイ科114種 ほか		
山形県産ゲンゴロウ類標本36種	87	高橋 誠・池田都志也氏 寄贈
鳥類剥製標本	3	本館収集
ヤマシギ・ノゴマ・オオアカゲラ		
宮町遺跡出土土師器	8	池野庄一郎氏寄贈
山形城北不明堀用水論裁許絵図写（宝永3年）	1	海和与一郎氏寄贈
志戸田村絵図	1	〃
質屋営業規定（嘉永元年）	1	福島 坦氏 寄贈
質札	2	〃
祭文語り用具一式	15	鈴木イセエ氏寄贈
法螺貝・錫杖・拍子木・扇子・演台垂れ幕・台本		
紙芝居・上杉鷹山公	1	本館収集
夏休みおさらい帳	18	〃
記念絵はがき	11	〃
（県内各学校・戦前編）		

平成9年度

新収蔵品展

1998

2月14日(土)～4月12日(日)

山形県立博物館



ベニオキナエビス（鈴木稔貝類コレクションより）

開催にあたって

この企画展は、博物館の収集・整理活動のまとめとして毎年開催しているものです。

この度は、平成9年度中に新たに収蔵した資料や整理の終わった資料の中から、県民のみなさまにとって興味深い、貴重な資料を選んで展示します。

本展を開催するにあたり、資料をご寄贈いただいた方々や収集活動にご協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

館長 奥山 元

展示解説

【地学】

オウギハクジラ全身骨格 この個体は、1995年3月に温海町釜谷坂の海岸に死後漂着したものです。体長は5.1mあり、体重は推定で1.2t程度と考えられます。本館では温海町役場の協力のもとで現地調査を行い、鯨の骨格を回収するため、現地で解剖しました。その後、骨の脱脂処理や補修を行って、今回やっときれいな標本になりました。



海岸に打ち上げられたオウギハクジラ（1995.3）

オウギハクジラの名前は、オスの成体において、下顎から突き出すように発達する1対の“扇形の歯”に由来します。この鯨はかつて、漂着や目撃例がほとんどない“謎の鯨”でしたが、近年日本海沿岸の各地に漂着するようになりました。その原因はわかっていませんが、庄内海岸でも、1993年から1997年までに6頭が漂着しています。漂着個体のなかには妊娠していたメスの例もあることから、この鯨は日本海で繁殖しているものと考えられます。

【植物】

山形県で特に注目される植物
県内の植物相を調べている研究者や愛好家の方々から、今年も多数のおし葉標本を寄贈していただきました。その中でも特に注目されるものとして新採集の植物6点と分布が稀な植物35点、合わせて41点を展示します。



オオタカネバラ

ヒロハククザキイチゲ キクザキイチゲの新変種で、全体が大きく、採集者である加藤氏の名が学名につけられています。
ベニシュスラン 斎藤利孝氏が発見した暖地系の植物です。
カワシロナナカマド 自生地が県内で初めて確認された、アズキナシとナナカマドの自然交雑種です。
オオタカネバラ 暑さに弱く、果実は洋ナシ形楕円形で、熟すと紅色になります。幼枝は紅褐色です。

【動物】

鈴木稔貝類コレクション これらの貝類標本は、川西町上小松の故鈴木稔氏が永年にわたって収集してきた東北一ともいわれる貝類コレクションの一部で、膨大な資料は最終的には数万点にのぼるとみられます。昨年2月に一括して寄贈していただいたものですが、整理にはまだしばらくの時間がかかります。今回はこれらの内、タカラガイ科などごく一部の資料を紹介します。

山形県産ゲンゴロウ類標本

山形県で、現在までに生息が確認されている36種のゲンゴロウを全種揃えた一括標本です。鳥海山麓に局地的な分布を示すオオイチモンジシマゲンゴロウなど、稀少種を含むたいへん貴重な資料です。



オオイチモンジシマゲンゴロウ 左メス 右オス

鳥類剥製標本 今年本館の周辺と山形市・尾花沢市で収集されたヤマシギ・ノゴマ・オオアカゲラの3種を展示します。

【考古】

宮町遺跡出土の土師器 遺跡は山形市街北西の水田に位置していましたが、現在は宅地化が進んで発見当時の面影は見当たりません。今回の展示で紹介する土師器は、昭和49年（1974）3月に山形市落合町の池野庄一郎氏から本館に寄贈された資料12点のうち8点です。これら資料は「本県の古墳時代前期初頭を代表する古い土師器」として著名なものですが、その詳細は実際のところわからないのが実情です。本館では状態の良い4点の古式土師器を常設で展示していますが、同時に採集されたその他の土師器にも注目すべきものが見られます。

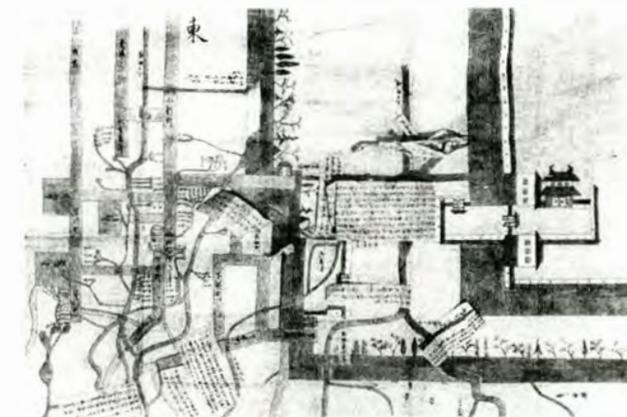
例えば、棒状浮文を持ち、櫛描波状文の施文が見られる壺形土器の口縁部資料（写真）は、弥生終末から古墳時代初頭期の土器相を探るうえでは、たいへん貴重な資料となるものです。また、遺跡域には鴨遺跡と同様な古墳時代後期の土師器も存在することがわかります。



【歴史】

山形城北不明堀用水論裁許絵図写 縦218cm×横202cm

宝永2年（1705）から翌年にかけて、城下山形町・志戸田村と江俣・鮎洗・舟町など8か村との間に起こった山形城の丸北不明堀から流れ出る用水の配分について争った裁判の裁許絵図の写しです。宝永3年5月に幕府から渡された裏面に判決文が記載された大きな絵図を天保11年（1840）に写したものです。右上に判決文の写しやこの写しを作った事情が書かれた貼紙があります。絵図には東は山形城の一角から西は須川まで関係する村々と用水堰・道路などが描かれ、判決内容の書き込みや大小の貼紙が方々にあります。北不明門の樹形や城門をはじめ、山形城の二の丸・三の丸の姿も描かれています。



山形城北不明堀用水論裁許絵図写（部分）

志戸田村絵図 弘化2年（1845）以後のものともみられ、集落や寺社、水田・畑・道路・水路などが詳しく描かれています。